

# 一般質問

## ここが聞きたい！

令和6年第8回町議会（定例会）の一般質問には2人の議員が登壇し、町政に対するさまざまな課題について、現状や今後の方向性を町長などに問い質しました。

一般質問とは、議員が町長や教育長などに対し、町政に関するさまざまな課題について、考えを聞いたり提案をしたりするもので、質問と答弁がかみ合うように全文通告制を採っています。

なお、再質問からは一問一答方式で行い、回数に制限なく質問時間を一議員30分以内としています。



**秋元 直樹 議員 8**

各地域における水泳授業の今後の取り扱い



**阿部 君枝 議員 9**

HPVワクチンのキャッチアップ接種延長に伴う再度の啓蒙を  
ほか1件

# 各地域における水泳授業の

## 今後の取り扱い

教育長へ実技を含む形での

環境整備に努めたい

ろです。

### 問

行政改革推進委員会からの提言をもとに、町から公共施設の見直し方針が令和6年11月に示されました。

その中で各地域のプールについては、数年以内に加え温水プールへ集約を進めていくとの方向性が示されているとこ



各地域のプールでは老朽化が進み、また児童生徒数も減少している

### 答

令和6年11月に策定された公共施設

行政改革は不断の精神で進めていく必要がありますが、各地域の学校の水泳授業の実施が困難になるおそれがあることから、慎重な検討と十分な協議が必要と考えます。文部科学省が定めている学習指導要領では、小学校1年生から中学校2年生までは水泳授業が必修とされていますが、水泳場が確保できない場合は実技を伴わなくてもよいとされています。教育委員会として、各学校の水泳授業を今後どのように取り扱っていく考えか見解を伺います。

の見直し方針では、各地域の水泳プールは「十分な検討・協議により、えんがる温水プールへ統合し、廃止すべき」とされており、生田原及び安国水泳プールは令和9年度に、丸瀬布水泳プールは令和10年度までに統合・廃止する方針が示されています。白滝水泳プールは、10日の本会議において本年度末をもって廃止にするとしております。

令和6年度の各小学校のプールでの水泳授業については、分校を除く全小学校と安国中、丸瀬布中で実施しています。

各学校の水泳授業を今後どのように取り扱っていく考えかとの質問については、教育委員会としては各小学校の体育のカリキュラムを尊重するとともに、命を守るための水に対する安全教育の一環としても水泳授業は重要



あきもと 秋元 議員  
なおき 直樹

### 問

各地域のプールは夏休み期間中も一定の利用があり、集約により子どもたちの心身の成長や夏休みの過ごし方に影響が出てくる懸念があります。

集約するのであれば、教育委員会が温水プールへの送迎も含めた事業を

であると考えています。各学校との今後の協議において、プールでの水泳授業を実施したい希望がある場合は、これまでと同様に実技を含む形で授業ができるよう環境整備に努めたいと考えています。

### 答

今回の白滝水泳プールの廃止に伴い、白滝地域の児童生徒を持つ保護者に夏休みのプールの利用についてのアンケート調査を計画しています。

そのアンケート結果を踏まえ、ほかの地域でも集約された場合を想定しながら、どのような形で対応できるのか今後検討していきたいと考えています。

# HPVワクチンのキャッチアップ 接種延長に伴う再度の啓蒙を

町長～引き続き周知・啓蒙による  
情報提供を実施し、接種を進めます

町ではこれまで、ホームページや町公式LINEなども活用して啓蒙を行ってきた



ば、その後1年間は無料で受けられます。期間延長に伴う対象者は、平成9年度から平成19年度中に生まれた女性に加え、平成20年度中に生まれた女性も対象となります。

令和6年9月末までの初回キャッチアップ接種率は30〜40%台ですが、夏以降ワクチンの需要が大幅に増加し、一時的に出荷が制限されていたことが考慮されました。

そこで、対象者にワクチンの有効性・安全性について引き続き丁寧かつ確実に情報提供を行う必要があると考えますが見解を伺います。

**問** 厚生労働省は、子宮頸がんワクチンの定期接種を逃した女性を対象に、令和7年3月まで無料で行うとしていた特例措置「キャッチアップ接種」の期間延長を決めました。

接種は計3回受ける必要があり、令和7年3月末までに初回接種をす

**答** 町としては、各学校を通じた勧奨を

行ったほか、相談会の実施や「遠軽がんばろう夏まつり千人おどり」の会場で、チラシ入りポケットティッシュなどの啓発物を配布し周知・啓蒙を実施

## 帯状疱疹予防ワクチンの一部助成を

**問** 帯状疱疹の合併症として、50歳以上の約20%の方が、帯状疱疹治療後に疼痛が残る帯状疱疹後神経痛を発症するとの報告があります。帯状疱疹後神経痛による激痛は、高齢者にとって耐え難い問題です。

令和6年6月に厚生労働省は、接種費用を公費で補助する「定期接種」に含める方針を決め、今後接種の対象年齢などについて専門家会議で議論した上で、正式に決定するとありました。

実施するなど、これまでさまざまな接種の勧奨を行ってきたところです。

今後各種周知・啓蒙による情報提供を実施するとともに、医療機関と連携をとりながらワクチン接種を進めます。

## 一部助成を

そこで、遠軽町においてもさらなる高齢化が予想されることから、発症を未然に防ぐ対応が喫緊の課題です。

国の動向を踏まえて、帯状疱疹予防ワクチン接種の一部助成を検討すべ

きと考えますが町の見解を伺います。

**答** 帯状疱疹ワクチンについて、現時点

(令和6年12月11日現在)では定期接種を方針として決定したわけではないものの、厚生労働省

所管の審議会の小委員会で、定期接種に用いるワクチンとする方向性で議論が整理され、今後それに基き基本方針部会で検討が進められます。

帯状疱疹ワクチンの助成は、こうした国の動向を踏まえて、本町として対応を検討していくべきと考えています。



あべ きみえ 阿部 君枝 議員